

# ニューロステロイドと気分障害

加賀谷 有行

## Summary

うつ病をはじめとした気分障害の病因についてはいまだに不明な点が多い。そのようななかで、ニューロステロイドの関わりが指摘されており、精力的に研究もされている。本稿では、近年の気分障害の診断基準の変更を最初に概説し、続いてニューロステロイドとうつ病などとの関連について考察する。月経前不快気分障害におけるニューロステロイド研究が先駆となり、うつ病や双極性障害の病因の解明につながることを期待している。

## Key words

うつ病  
ニューロステロイド  
デヒドロエピアンドロステロン(DHEA)  
エストロゲン  
月経前不快気分障害

Ariyuki Kagaya

医療法人せのがわ KONUMA 記念広島薬物依存・  
地域精神保健研究所所長

## はじめに

気分障害、特にうつ病の生物学的異常については、古くからセロトニン神経伝達の障害や視床下部-下垂体-副腎皮質系の異常などが指摘されている。しかし、どれも仮説の域を出ず、気分障害の原因が解明されたとはいいがたい。そのような現状で、脳で産生され脳に作用するステロイドホルモン(ニューロステロイド)と気分障害との関連を示唆する報告もいくつかされる<sup>1)</sup>ようになっており、気分障害の成因を理解するうえで進歩が期待されている。本稿では、ニューロステロイドと気分障害との関連、なかでもうつ病などの気分の落ち込みを呈する疾患との関連について概説する。

## 抑うつ症状について

まず、『DSM-5 米国精神医学会による精神疾患の分類と診断の手引』<sup>2)</sup>に記載されている抑うつエピソードについて簡潔にまとめる。筆者は、各症状の“ほとんど1日中”や“ほとんど毎日”という点を見逃さないよう気をつけて診察している。

### 1. 抑うつエピソード

抑うつ気分：ほとんど1日中、ほとんど毎日の抑うつ気分(悲哀、絶望、空虚感)。

興味または喜びの喪失：ほとんど1日中、ほとんど毎日の、ほとんどすべての活動における興味または喜びの著しい減退。

体重変化：食事療法をしていないのに、有意の